

# KF シールテクト HA工法 (防水塗装 A種) 施工要領書

2021年3月23日作成  
2021年9月16日改訂

KFケミカル株式会社

1	KFシールテクト HA工法 仕様	3項
2	KFシールテクト HA工法 仕様断面図	3項
3	施工フロー図	4項
4	施工条件	4項
5	要求下地	4項
6	施工手順	
6-1	下地処理、清掃、養生	5項
6-2	KFウレタンプライマー50N塗布	6項
6-3	KFシールテクトHAトップ塗布	7項

# 1 KFシールテクトHA工法 防水塗装A種 仕様

## ■ KFシールテクトHA工法

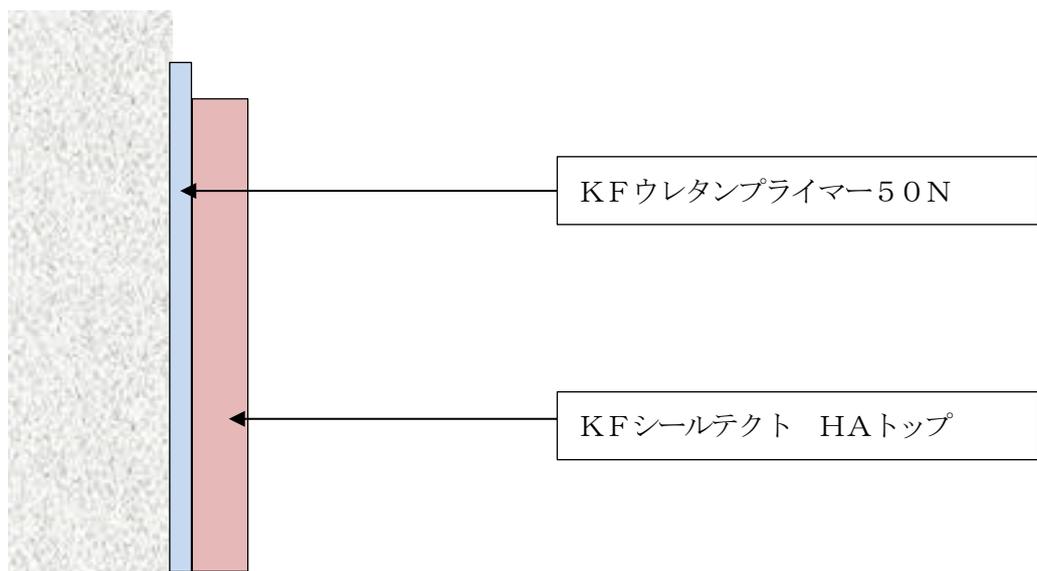
工程	種別	使用材料	塗装方法	標準塗布量/m <sup>2</sup>
1	1液湿気硬化型ウレタン塗料	KFウレタンプライマー50N	ローラー 刷毛	0.10kg※1
2	1液湿気硬化型ウレタン塗料	KFシールテクトHAトップ	金鋺	0.70kg※2
3			ゴム鋺 ゴムヘラ	

※1：KFウレタンプライマー50Nは劣化したコンクリート下地の場合、標準塗布量よりも多くなる場合がある。  
その為、事前にテスト塗り等を行い塗布量の算出を行うと良い。

※2：KFシールテクト HAトップは塗り重ね回数を2回とし、総塗布量を1.4kg/m<sup>2</sup>とする。

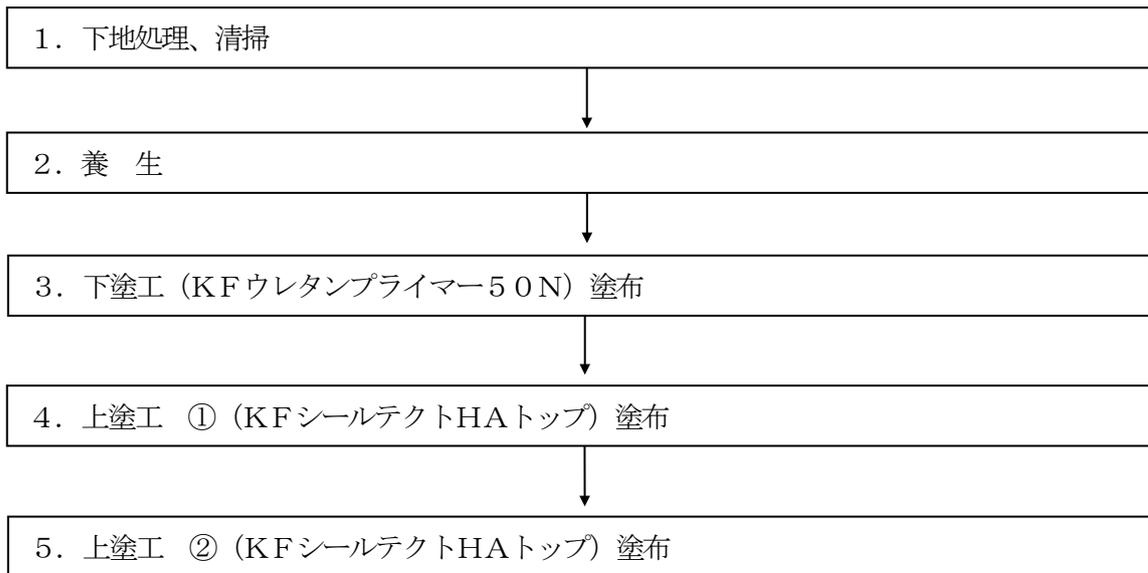
但し、下地が平滑でない場合には下地の凹凸状況により塗布量が多くなる為、※1同様に事前にテスト塗り等を行い塗布量の算出を行うと良い。

# 2 KFシールテクトHA工法 防水塗装A種 施工断面図



施工断面図

### 3 施工手順フロー図



### 4 施工条件

#### (1) 施工条件

以下の条件をすべて満たした状態で施工を行う。

- ・降雨、降雪、強風がないこと
- ・気温5℃以上、湿度85%以下であること
- ・下地含水率10%以下であること
- ・施工面が十分乾燥し、結露・凍結がないこと
- ・施工面は十分に清掃され付着阻害要因となる異物等がないこと

### 5 要求下地

- (1) 施工面の補修歴を確認し、施工に支障のない下地表面であること。
- (2) 塗装面、コンクリートの表面が十分に乾燥していることを確認する。
- (3) 施工に支障のない程度に止水処理がされていること。

## 6 施工手順 6-1

作業名	下地処理・清掃・養生	施工手順番号	1、2
-----	------------	--------	-----

使用材料と使用量	なし	使用工具	①サンダー ②清掃用具 ③墨出し ④養生テープ ⑤皮スキ
----------	----	------	------------------------------------

作業内容	注意事項
<p><b>【下地処理】</b></p> <p>①下地と防水材の接着を阻害するようなレイタンス、油脂、錆、よごれ等は除去すること。また、著しい突起物、豆板などの欠陥部は補修すること。</p> <p>②コンクリートの表面含水率は、高周波式コンクリート・モルタル水分計を用いて計測し、10%以下であることを確認すること。</p> <p>③ひび割れ部からの水分は十分に止水を行うこと。</p> <p><b>【清掃】</b></p> <p>①下地表面にあるゴミやホコリ等を箒等で除去する。</p> <p>②地面に落ちたゴミやホコリ等は塵取り、乾湿両用掃除機等で清掃する。</p> <p><b>【養生】</b></p> <p>①施工範囲確定後、墨出しを行う。</p> <p>②墨に合わせマスキングテープや養生テープを貼りつける。</p> <p>③遮音壁、支柱、ケーブル等について同様に養生を行う。</p>	<p>・下地処理を怠ると施工不良の原因になるため、適切な下地処理がなされていることを確実に確認すること。</p> <p>・使用材料が付着すると容易に剥がすことが出来ないため、付着してはいけない機材等も養生を行う。</p>

## 6 施工手順6-2

作業名	KFウレタンプライマー50N塗布	施工手順番号	3
-----	------------------	--------	---

使用材料と塗布量	KFウレタンプライマー50N (0.1kg/m <sup>2</sup> )	塗装用具	①中毛ローラー ②刷毛
----------	---	------	----------------

作業内容		注意事項																					
<p>①KFウレタンプライマー50Nは1液湿気硬化型ウレタン塗料なので、混合不要です。</p> <p>②刷毛、中毛ローラー等を用いて、0.1kg/m<sup>2</sup>均一に塗布する。</p> <p>《 塗装間隔及び使用可能時間の目安について 》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">温度</th> <th>5~15℃ 冬期</th> <th>10~25℃ 春秋期</th> <th>20~35℃ 夏期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">標準 塗装間隔※1</td> <td>最短</td> <td>4時間~</td> <td>2時間~</td> <td>2時間~</td> </tr> <tr> <td>最長</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> </tr> <tr> <td colspan="2">使用可能時間</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 標準塗装間隔 下地への塗布後、上塗工の施工が可能な時間。</p> <p><b>注意：</b>次工程までの塗装間隔が超過した場合は、塗膜表面をマジックロン等で目粗ししてから施工してください。 また、塗膜が降雨等で白化現象を起こした場合は、マジックロン等で目粗ししてから再度KFウレタンプライマー50Nを塗布してください。</p>		項目	温度		5~15℃ 冬期	10~25℃ 春秋期	20~35℃ 夏期	標準 塗装間隔※1	最短	4時間~	2時間~	2時間~	最長	~7日間	~7日間	~7日間	使用可能時間		—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・容量 : 3kg</li> <li>・容器 : 4L角缶</li> <li>・施工条件に注意する。</li> <li>・塗りムラ、溜まりを抑えるため、タテ、ヨコ方向に交差するよう塗布する。</li> <li>・使用する塗布用具は施工部位、下地の状況に応じて適宜使い分ける。</li> <li>・塗布後、指触乾燥状態になったら、上塗の施工が可能。</li> <li>・硬化の始まった材料の使用は厳禁。</li> <li>・コンクリート等の劣化が激しい下地の場合、塗布量が0.1kg/m<sup>2</sup>以上になる為、事前にテスト塗り等を行い実際の塗布量を確認すると良い。</li> </ul>	
項目	温度		5~15℃ 冬期	10~25℃ 春秋期	20~35℃ 夏期																		
	標準 塗装間隔※1	最短	4時間~	2時間~	2時間~																		
最長		~7日間	~7日間	~7日間																			
使用可能時間		—	—	—																			

## 6 施工手順 6-3

作業名	KFシールテクトHAトップ塗布 (2回塗り)	施工手順番号	4、5
-----	---------------------------	--------	-----

使用材料と塗布量	KFシールテクトHAトップ (0.7kg/m <sup>2</sup> ×2回)	塗装用具	①金鏝、ゴム鏝 ②刷毛
----------	--	------	----------------

作業内容	注意事項																				
<p>①KFシールテクトHAトップは1液タイプで、硬化剤等の混合は不要。ただし容器底に塗料成分が沈降している場合があるため、使用前には攪拌機等で30秒程度攪拌後使用する。</p> <p>②KFウレタンプライマー50Nが指触乾燥していることを確認する。</p> <p>③金鏝またはゴム鏝で0.7kg/m<sup>2</sup>を均一に塗り付ける</p> <p>④1層目のHAトップが硬化していることを確認してから2層目のHAトップを均一に塗り付ける。</p> <p>《 塗装間隔の目安 について 》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">温度</th> <th>5~15℃ 冬期</th> <th>10~25℃ 春秋期</th> <th>20~35℃ 夏期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">項目</td> <td>最短</td> <td>12時間~</td> <td>8時間~</td> <td>4時間~</td> </tr> <tr> <td>最長</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 標準塗装間隔 同一材料による積層可能時間 (2層目の塗装間隔)</p> <p>《 使用可能時間について 》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KFシールテクトHAトップは空気中の水分と反応するため、開封後数時間放置する場合には、マスキング、ビニール袋等で塗料を空気から遮断する。</li> </ul> <p>《膜厚管理について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WE T膜厚管理           <table border="0"> <tr> <td>塗布量0.6kg/m<sup>2</sup></td> <td>→600μm</td> </tr> <tr> <td>塗布量0.7kg/m<sup>2</sup></td> <td>→700μm</td> </tr> <tr> <td>塗布量0.8kg/m<sup>2</sup></td> <td>→800μm</td> </tr> </table> </li> </ul>	温度		5~15℃ 冬期	10~25℃ 春秋期	20~35℃ 夏期	項目	最短	12時間~	8時間~	4時間~	最長	~7日間	~7日間	~7日間	塗布量0.6kg/m <sup>2</sup>	→600μm	塗布量0.7kg/m <sup>2</sup>	→700μm	塗布量0.8kg/m <sup>2</sup>	→800μm	<ul style="list-style-type: none"> <li>・容量： 8kg</li> <li>・容器：半切石油缶</li> <li>・施工条件に注意する。</li> <li>・下地の凹凸状況により塗布量が標準塗布量よりも多くなる場合がある為、事前にテスト塗り等を行い、実際の塗布量を確認すると良い。</li> <li>・硬化の始まった材料の使用は厳禁。</li> <li>・WE T膜厚測定は塗装後、直ぐにウエット膜厚計で測定する。</li> </ul>
温度		5~15℃ 冬期	10~25℃ 春秋期	20~35℃ 夏期																	
項目	最短	12時間~	8時間~	4時間~																	
	最長	~7日間	~7日間	~7日間																	
塗布量0.6kg/m <sup>2</sup>	→600μm																				
塗布量0.7kg/m <sup>2</sup>	→700μm																				
塗布量0.8kg/m <sup>2</sup>	→800μm																				